

⑫ Ranking に於ける有意差検定法

多賀 保志

m 人の人が n 個のものについて ranking を行った時、特定の2個のものに附けられた rank の間に有意差があるか否かを検定する方法を述べて見よう。

第 i 番目の人が、第 j 番目のものにつけた rank を x_{ij} ($i = 1, 2, \dots, m$; $j = 1, 2, \dots, n$) とし、 j 番目のものについての rank の mean を

$$\bar{x}_j = \frac{1}{m} \sum_{i=1}^m x_{ij} \quad \dots \dots \dots (1)$$

とし、これを j 番目のものの rank と考える。今簡単の爲同順位は作らないとしておく。

人 \ 物	1	2	-----	n	平均
1	x_{11}	x_{12}	-----	x_{1n}	$\frac{n+1}{2}$
2	x_{21}	x_{22}	-----	x_{2n}	$\frac{n+1}{2}$
⋮			-----		⋮
m	x_{m1}	x_{m2}	-----	x_{mn}	$\frac{n+1}{2}$
平均	\bar{x}_1	\bar{x}_2	-----	\bar{x}_n	$\frac{n+1}{2}$

さて今假説として n 個のものの中に rank の差はないものとする。そして rank の差がないものに対して(むりに)各入に rank をつけさ

せば出て来る rank はあらゆる順列を作ることによつて得られる $(n!)^m$ 通りの ranking は、すべて同様に確がらしいと考えられる。どの2つのものをとつて比較しても同じだから、今1番目と2番目の物の rank を比較しよう。

$$y = \bar{x}_1 - \bar{x}_2 \quad \dots\dots\dots (2)$$

なる統計量を考えると、

$$\mu_1 = E(y) = 0 \quad \dots\dots\dots (3)$$

$$\mu_2 = \sigma^2 = E(y^2) = \frac{n(n+1)}{6m} \quad \dots\dots\dots (4)$$

$$\mu_3 = E(y^3) = 0 \quad \dots\dots\dots (5)$$

$$\mu_4 = E(y^4) = \frac{n(n+1)}{60m^3} \{ (5m-1)n^2 + 5(m-1)n + 6 \} \quad \dots\dots\dots (6)$$

従って

$$\beta_1 = 0 \quad \dots\dots\dots (7)$$

$$\beta_2 = 3 \left\{ \frac{n}{n+1} \left(1 - \frac{1}{5m} \right) + \left(1 - \frac{1}{m} \right) \frac{1}{n+1} - \frac{6}{5n(n+1)} \right\} \quad (8)$$

となり、 m, n が十分大ならば、 $\beta_2 \approx 3$ と有るから、 y は漸近的に $N\left(0, \frac{n(n+1)}{6m}\right)$ に従って分布すると考えられる。

(奇数次のモーメントはすべて0となる。なお一般2入次のモーメントについては註参照)

以上の事柄より、2つのものに附けられた rank の間に有意差があるか否かを検定するには、次の様に行えば良いことになる。

(i) m, n が小さい時は、Guttman の不等式¹⁾より、

$$Pr \left\{ |\bar{x}_1 - \bar{x}_2| > k \sqrt{\frac{n(n+1)}{6m}} \right\} < \alpha$$

となるから、有意水準を $\alpha = 0.05$ とするには $k = 2.7$ とおけばよい。

$\bar{x}_1 - \bar{x}_2 > k \sqrt{\frac{n(n+1)}{6m}}$ となれば、1番目の物の rank は2番目のそれより有意に低いと考える。

(ii) m, n が十分大で、 y が $N\left(0, \sqrt{\frac{n(n+1)}{6m}}\right)$ に従うと

考えられる時は、

$$Pr \left\{ |\bar{x}_1 - \bar{x}_2| > k \sqrt{\frac{n(n+1)}{6m}} \right\} < \alpha$$

に於て、 $k = 1.96$ の時 $\alpha = 0.05$ 、 $k = 2.57$ の時 $\alpha = 0.01$ とおけば良い。

[註] 1° $E(y^{2\lambda})$ の計算

$$\begin{aligned} E \left\{ \frac{1}{m!} \sum_{i=1}^m (x_{i1} - x_{i2}) \right\}^{2\lambda} \\ &= \frac{1}{m^{2\lambda}} \sum_{\sum_{i=1}^m \lambda_i = \lambda} \frac{(2\lambda)!}{\prod_{i=1}^m (2\lambda_i)!} \prod_{i=1}^m E(x_{i1} - x_{i2})^{2\lambda_i} \\ &= \frac{1}{m^{2\lambda}} \sum_{\sum \lambda_i = \lambda} \frac{(2\lambda)!}{\prod_{i=1}^m (2\lambda_i)!} \prod_{i=1}^m \frac{n \sum_{k=1}^{n-1} k^{2\lambda_i} - \sum_{k=1}^{n-1} k^{2\lambda_i+1}}{n(n-1)/2} \\ \sum_{k=1}^{n-1} k^{2\lambda_i} &\doteq \frac{n^{2\lambda_i+1}}{2\lambda_i+1}, \quad \sum_{k=1}^{n-1} k^{2\lambda_i+1} \doteq \frac{n^{2\lambda_i+2}}{2\lambda_i+2} \end{aligned}$$

なる近似式を使い、 $\lambda_i = 0$ の場合を除いたものを $(\lambda_{i1}, \dots, \lambda_{it})$ とすれば

$$\begin{aligned} E(y^{2\lambda}) &\doteq \frac{1}{m^{2\lambda}} \sum_{t=1}^{\lambda} \sum_{\sum \lambda_{ij} = \lambda} \frac{2\lambda!}{\prod_{j=1}^t (2\lambda_{ij}+2)!} \binom{m}{t} \prod_{j=1}^t 2n^{2\lambda_{ij}} \\ &= \frac{n^{2\lambda}}{m^{2\lambda}} \sum_{t=1}^{\lambda} \sum_{\sum \lambda_{ij} = \lambda} \binom{m}{t} \frac{2^t (2\lambda)!}{\prod (2\lambda_{ij}+2)!} \end{aligned}$$

$t = \lambda$ 即ち $\lambda_1 = \lambda_2 = \dots = \lambda_m = 1$ なる時 $\binom{m}{t}$ の order は最も高くなるから (その時 $\binom{m}{t} \doteq O(m^\lambda)$).

$$= \frac{n^{2\lambda}}{m^{2\lambda}} \cdot \frac{m^\lambda}{\lambda!} \cdot \left(\frac{2}{4!}\right)^\lambda \cdot (2\lambda)!$$

$$E(y^{2\lambda}) \doteq \frac{n^{2\lambda}}{(6m)^\lambda} \times \frac{(2\lambda)!}{2^\lambda \lambda!}$$

となる。 $\lambda = 1$ とおけば

$$\sigma^2 = \frac{n^2}{6m} \quad \therefore \sigma^{2\lambda} = \frac{n^{2\lambda}}{(6m)^\lambda}$$

となるから

$$\mu_{2\lambda} / \sigma^{2\lambda} = \frac{(2\lambda)!}{2^\lambda \lambda!}$$

を得る。

2° 同順位ある場合は改めて σ^2 の値を計算すれば良い。

[例] 質問法調査²⁾に於て、都内の公立中学校2年生に、聞きたいと思う順にラゲオ番組の ranking を行われた所次の様な結果を得た。

番組 性別	野球	落語	10のこぼし	のど自慢	音楽	英会話	街頭録音	人数 m	$\sum r$
男	① 3,006	② 3,608	③ 3,869	④ 4,045	⑦ 4,858	⑤ 4,108	⑥ 4,506	176	0.4606
女	⑦ 6,295	⑥ 4,630	② 3,267	④ 3,671	① 2,596	③ 3,562	⑤ 3,979	146	0.5128
男+女	⑦ 4,497	⑤ 4,071	① 3,596	④ 3,876	② 3,532	③ 3,560	⑥ 4,267	322	0.3406

男について有意差がみられるものを上げると、

$$\textcircled{1} > \textcircled{2} > \textcircled{5} > \textcircled{7}, \quad \textcircled{3} > \textcircled{6}, \quad \textcircled{4} > \textcircled{6}$$

となる。但し > は上に計算した有意差をあらわす。(有意水準 5%)

女について見ると

$$\textcircled{7} > \textcircled{2} > \textcircled{5} > \textcircled{6} > \textcircled{7}$$

となる。

男+女について見ると

$$\textcircled{7} > \textcircled{5} > \textcircled{7}, \quad \textcircled{2} > \textcircled{6}, \quad \textcircled{3} > \textcircled{6}, \quad \textcircled{4} > \textcircled{6}$$

男と女の順位が逆になっていること、女の方に好悪の差がはつきり出ること、男女を一緒にすると順位差がほやけてくること、等

が分り、興味深い。(なおこの問題は統計数理研究所の西平氏によつて提出された。)

- 1) A. M. S. Sapt. (1948)
- 2) 統計数理研究輯報 第9号